南国意外史〈1〉
市名きわめて安産

町村合併が盛んなころから終末の「南国市」発足にかけて、四十に近い町村の合併問題を取材したが（新聞記者であったから、南国関係の旧町村首脳や合併推進委員は進行途上の裏のことまでよく話してくれました。しかし、同じことがらが時と場所が移ることに変っていたりして心身共に休まらなかったことを思い出します。

これから数回、合併までの過程と、合併後にあった〝うらばなし〟を「南国意外史」と題して、時期の順序を考えずに少ない字数で書くことにします。

三谷勇喜（大埔）

市名を選ぶ旧町村首長や合併推進関係者が高知市内の会場で〝ありふれたものでなく、言いやすい〟ことなどを土台にして候補市名を出しあった。その場で〝南国〟はそう重く見られていないようだったが、格別な論議もされず、あっけなく決った。もっとも南国――という複合語は普通には（なんごく）とにごるから、新聞記事にする都合でそのことを確認すると、「なんこく！なんこく！」と一声。

それが呼称の決定となった。ところが十数年たってからでも建設省は市境の国道標識高く、NHKはテレビで〝なんごく〟と誤報するので新聞投書欄などで指摘すると改まった。また〝落選〟市名の主なものは▲嶺南（れいなん）＝市の北部、根曳峠付近から北の大豊など五町村を〝嶺北〟と総称することがあるように、峠から南は旧長岡郡、現高知市の大津・介良もふくめて〝嶺南〟というが、合併後の今は死語同様。（嶺＝山または峰、山嶺とも使った。）▲南国太平（なんごくたいへい）＝故人となった作家・直木三十五の小説「南国太平記」＝目下NHKテレビ放映の〈風の隼人〉が当時毎日新聞に連載されていたため、その印象から考えついたものだろう。▲黒潮（くろしお）＝終戦のころまでよく使われた〝黒潮寄せる南の国、土佐……〟の形容に困ったものといえる。

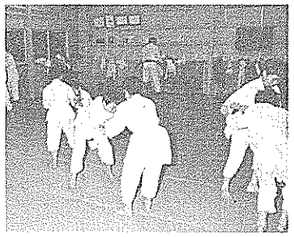
柔道振興にと道場を新築
二月十一日に道場開き

いつでも、気軽に柔道ができるようにと、後免町に住む中村昭弘さん（33歳＝四段）が私財を投じて、大篠保育所の南側に柔道場を新築、南国市柔道連盟へ無償で貸与しました。

二十一日にはたくさんの関係者が集まり模範演技やチビッ子の招待試合などで盛大に〝道場開き〟が行われました。

道場は鉄骨造り約九十二平方メートル、四十五畳の立派なもの。

中村さんは、中学三年生の時から柔道を始めて以来そのとりこになり、七年前から趣味と柔道振興のために、旧南国警察署跡の道場で子どもたちを指導し続けている根っからの柔道愛好家。新しい道場ができたことでより多くの子どもたちを指導したいとはりきっています。会費は月千円です。くわしいことは中村昭弘さん（☎④2458）まで。



地区史〝大篠〟が完成

大篠地区待望の地区史〝大篠〟が昨年末完成、農協の組合員などに配付されました。

この〝大篠〟はB6判、四百ページを越す〝見行本〟で、その内容は村の生いたち、地勢、気象、自治、教育、農業、風俗、文学、娯楽、人物、伝説、歴史など百般を識り込んだ労作です。

〝大篠〟の生みの親は①上古時代からの村の歩みを記した、昭和五年刊行の「大篠村我等の郷土」で、関係者にそれ以後現在までの約半世紀を後世に残すことの使命感を強くさせました。②昭和四十六年の農協理事会で資金援助が約束された。ことで、途中公民館の火事による資料焼失、執筆者の多忙や健康支障など中断もあったがようやく五十四年末の発刊にこぎつけたいものです。

編集委員は元村長の岩村元治氏ら三十四名で、農協の組合員らに約七百五十冊が配付されています。

近年都市化が最もはげしい「大篠地区」だけに、今では二千六百戸の世帯があります。むらに住む人、むらをふるさととする人、縁あってむら人となった多くの人々や南国市にとっても貴重な、価値あるものになります。

製作関係者のみなさん、ほんとうにごくろうさんでした。

なお、購読ご希望の方は、市農協大篠支所で、一冊五百円で入手できますのでおしらせします。

おたずねは☎③4131まで。

ご家庭で話し合って答えてください。答えはこの広報に出ています。

■もんだい　○月○日の臨時議会で、比江山の約一〇㌶の土地の売却が決まりました。

■しめきり　三月十五日（土）

■おくり先　〒783　南国市大埔甲2301　南国市役所内広報委員会　親子クイズ係

■答えのハガキには必ず、住所・氏名・年齢・職業を書いてください。

■賞品　特賞千円＝三人、残念賞（記念品）＝五人

第10回学校訪問
キャラバン隊

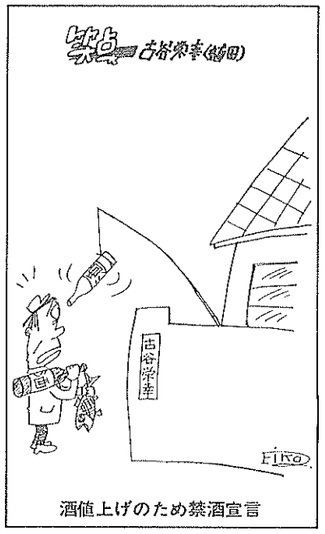
豊かでたくましい子供に――との願いをこめて毎年行われている市子供会連合会主催の『学校訪問キャラバン隊』も、今年で十回目。

今年も二月二十一日、南部と北部コースに分かれ、二つのキャラバン隊が市内十三小学校を回り、人形劇や記念楯をプレゼントしました。

連合会の父母らで上演された今回の人形劇は『オサムとなまけ悪魔』で、勉強ぎらいのオサムが昔の時代に行き、勉強することの大切さやこれまでの幸わせな毎日の生活を改めて知る、というスジ。

『おまえたちのなかで一番のなまけ者は誰だ。今夜訪ねていくから待っておれ』との悪魔の最後の言葉には、見ている子供たちもドッキリ。

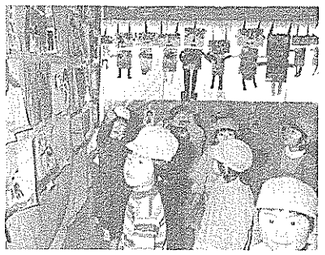
また、隣の小学校の児童代表によるメッセージの発表など、各校の交流を深める楽しい一日となりました。



幼児画展に三百人が参観

市内保育所の園児の作品を集めた『幼児画展』が、二月十六日から十八日までの三日間、後免町公民館で開かれました。

この幼児画展は、南国市保母会などが主催で毎年開かれているもので、今年は市内の保育所、幼稚園八園の一歳から五歳までの作品約二百点が出品され、子供や孫の力作をひと目見ようと、おかあさんやおばあさんなど三日間でのべ三百人がおとずれ、園児のかわいらしい絵や紙細工を見て目を細めていました。



第100回正解者発表

■こたえ・㈡期目でした。

■特賞・千円＝三人
本川光子さん（岡豊町小蓮）
平田尉代さん（大埔）
竹内　春さん（里改田）

■残念賞・記念品＝五人
豊永美里（外山）水田二男（久礼田）藤森義雄（東崎）岡崎光子（定林寺）隅田幸子（後免町）

第101回正解者発表

■こたえ・㈥百㈠人でした。

■特賞・千円＝三人
黒岩敬一郎さん（立田）
北岡輝恵さん（大埔）
野村久乃さん（大埔）

■残念賞・記念品＝五人
浜田律子（片山）前田茂子（東崎）和田清（物部）伊藤勝（東崎）杉内洋明（植野）

南国歌壇

断続乃雲の行方と身の幸越　下野田　竹村虎治
今朝も追ひ居り書斉乃窓に
温床の瓜を料亭にひさぎぬし
叔父に潤ひき六十年前は　八幡　岩村とよき
凍りいる野面を渡り聞へくる
御寺の鐘の目覚よとごとく　三畠　小笠原綾子
吹きすさぶ木枯風も素知らずや
満開美はなつ内縁の黄花　立田　清岡照子
ねむる間は安らぎならむ手も足も
捻られし徒姉を呼び醒まし得ず　笠ノ川　葛目治子
雪淡く残れる野辺の其処かしこ
青きが見ゆる春立ち初めて　亀岩　島本　栄

南国柳壇

強いられる返事大鉢の灰を掻き　湾渕由紀男（岩村句会）
鯨来の風邪を大事にせよと言い　和田幸郎（〃）
常通寺島　橋田井波
古市　長野福美
空を飛びオタマジャクシが　山岡みよ（〃）
春の使者　後免町　隈田俊作
入院の大部屋賑はい日の暮るる　吉川　妙（貸鐘句会）
立田　北村幸江
春の使者　竹内紀子（〃）
浜田民由（茅花の会）

南国俳壇

寒鮒の目玉ぎょろりと枠られる　門田けんぷ（〃）
木馬道天に登りて雪が降る　西村ひとし（〃）
立春や髪を切りたき思いあり
土の香の句ひうれしく春田打つ
土手焼けば小石転がり落ちるなり
ふと小窓開けそのままの春隣
今日も在る空地秋風十重廿十重
萩満開男子生れし便り受く
墨塚が立ついざなみ氏いざなぎ氏